

サン＝シモン主義の分裂（2）

＜11月27日のセレモニー＞（1）

前 田 祝 一

（1）

ジャン・レーノーは、＜11月27日のセレモニー＞の最後で、＜ちょっと躊躇したあとで、父アンファンタンの首に夢中になって抱きついた＞と、前号で書いたが¹⁾、これは《ル・グローブ》の記者の表現であって、グリフィス Griffiths はその浩瀚な伝記研究《ジャン・レーノー、ロマン主義時代の百科全書派》の中では、これについて＜彼はアンファンタンの額に別離の接吻をし、その瞬間にサン＝シモン主義の偉大な時期に幕が降りた＞²⁾と説明している。確かにレーノーは、11日にバザールが去ったあとは、反アンファンタン派を代表するもっとも激烈な論争家だった。＜19日の全体集会＞までは、その後フォーリエ主義に走るジュール・ルシュヴァリエやランソンもいた。また生涯の盟友ともいべきイポリット・カルノ、ピエール・ルルーもいた。＜21日の全体集会＞には、カゾーやサン＝シェロンも出席したし、シャルトンも出席して執拗に抗議の発言を繰返していた。しかし、この21日を最後にすべてが去ってゆく。残されたのはレーノーひとりというわけだった。＜27日のセレモニー＞を報じた《ル・グローブ》の28日号³⁾は、このレーノーの立場を解説して、

（……）

われわれの父アンファンタンが最高権威を承握したとき、そのときまでこの至高権を分かち持っていた父バザールは、抗議して脱退した。そのあとす

前 田

ぐに、サン＝シモン主義位階組織の若干のメンバーが同じように抗議して、家族の内から離脱した。レーノーも同じように自分を抗議者と表明するのに遅れをとったわけではなかった。しかし、彼はわれわれの中に留まっていた。彼に特別の愛情を抱き、彼にわれわれの信仰を授け、コルシカ島の奥で鉱山技師をしていた彼を、1831年の始めに自分のそばに呼び寄せたわれわれの父アンファンタンが、11月19日土曜日の家族の全体集会で、善意をもってこう言ったからだ。〈われわれの家族集会の中であれ、公共の場においてであれ、私の行為に関して、私がバザールのために留保しておいた高度なプロテスタンティズムの使命を、君が果してくれるようにと勧めたい〉。

(……)

(……)

Lorsque notre PÈRE ENFANTIN a pris possession de l'autorité suprême, le père *Bazard*, qui jusque là avait partagé la suprématie avec lui, a *protesté*, et s'est retiré. Peu après, plusieurs membres de la hiérarchie Saint-Simonienne ont *protesté* de même, et se sont écartés du sein de la famille. Reynaud n'a pas tardé à se manifester aussi comme *protestant*. Toutefois il était resté parmi nous; et notre père ENFANTIN, qui avait pour lui une affection toute particulière, qui l'avait initié à notre foi, qui au commencement de 1831 l'avait appelé près de lui du fond de la Corse, où il exerçait les fonctions d'ingénieur des mines, lui avait dit avec bonté, dans la réunion de la famille qui eut lieu le samedi 19 novembre: «Je t'exhorte à remplir, à l'égard de mes actes, soit dans nos réunions de famille, soit en public, la mission de haut protestantisme que j'avais réservée à *Bazard*.»

(……)

サン＝シモン主義の分裂 (2)

と書いている。つまり、前号で触れたように、組織の中であってレーノーだけが異議申し立ての権利、〈プロテスタンティズム〉の立場をアンファンタンから認められて、〈27日のセレモニー〉までひとり留まっていたということである。そして、セレモニーの締めくくりとしてのエミール・バロー Emile Barrault (このときはじめて父 Le Père の称号を使った) の説教も終り、アンファンタンとロドリグが退場しようとしたとき、レーノーはその権利を行使して、ロドリグの提案した〈サン＝シモン主義者金融組合〉の設立理由を激しく批判したのである。そして〈一時間半〉の応酬のあと、最終的には、〈プロテスタンティズムの状態にあったイエラルシーのメンバーの若干名は、「最高の父」の元に、父なる者の接吻を受けにやってきて、その権威を承認した〉と、この記事は結論づけたが、レーノーにとっては和解どころかこれは永遠の別離の接吻であった。彼は翌28日付の《共同抗議声明》の署名者に名を連ね、個人的な抗議文を《ル・グローブ》に送付し、ついに組織内批判分子の立場を放棄して、カルノ、ピエール・ルルーらの後を送って《百科雑誌》 la Revue Encyclopédique に合流するのである。したがって署名者が19名にのぼるこの《共同抗議声明》がこの分裂劇の最終場景、否それすらもすでに終わってしまったことの表示だったのである。グリフィスの言うように、これをもって〈サン＝シモン主義の偉大な時期に幕が降りた〉のである。真面目過ぎるほど真面目に取り組んだレーノーの青春の一時期、これを〈偉大な時期〉と言えば、それは確かに終わってしまった。しかし〈サン＝シモン主義の偉大な時期〉と言えば、見方によれば異論もあろう。いずれにせよサン＝シモン主義が体現していた一傾向は、バザール派と目されたグループの脱退により弱体化し、消えていったと言えるのである。この消えていった傾向とは何だったのか。結論から先に言えば、共和主義的傾向。フランス革命から7月革命へと流れていた共和主義的精神。それは18世紀の啓蒙哲学、百科全書派の批判的精神、自由と平等の原則の上に立つ個の尊厳、反権威主義であり、これらに基づく社会实践としての〈もっとも多数で、もっとも貧困な階級の、道徳的、物質的、知的運命の改善〉の運動、つまり《ル・グローブ》の左側の標語、これが消えてゆくのであった。中央の

前 田

標語で言えば、宗教 RELIGION(上)／科学 SCIENCE (左)／産業 INDUSTRIE (右)／普遍組織 ASSOCIATION UNIVERSELLE (下) とある内の左の言葉、〈科学〉の立場が宗教色の強化によって排除され、〈産業〉の立場が浮上したということである。バザールの離脱(11月11日)直前の地方教会宛の回状は、バザールが一時的にアンファンタンの至上権を承認し、それに伴って、指導部の組織が改編されたことを通知しているが、それは次のようなものであった⁴⁾。

(……) 今後サン＝シモン主義執行部は、われわれの三人の父アンファンタン、バザール、ロドリグを結びつける深い絆の上に全面的に基礎を置く。われわれの父は彼らの間ですべての仕事の指揮をつぎの形式の下に配分する。

父バザールは特に教義の完成とその教育に献身する。(i)

父O・ロドリグは特にわれわれの利害と物質的組織化の指揮に身を捧げる。(ii)

われわれの父アンファンタンは二人の間に位置して、とりわけ言葉と文章で芸術家に靈感を与える。(iii)

(……)

(……) désormais le gouvernement St simonien repose tout entier sur l'union profonde qui lie nos trois Pères Enfantin, Bazard, Rodrigues. nos Pères se distribuent entre eux la direction de tous les travaux sous la forme suivante :

Le Père Bazard se vouera particulièrement [à] un perfectionnement et à l'enseignement de la doctrine ; (i)

Le Père O. Rodrigues se consacrera

spécialemens à la direction de nos intérêts et à
notre organisation matérielle; (ii)

Notre Père Enfantin se place entre les deux,
donnant surtout l'inspiration aux artistes de
la parole et de l'écriture. (iii)

(.....)

この文章は元の段階のミッシェル・シュヴァリエの原稿では、(i)の個所が<科学 science と教育 enseignement に>(献身する), (ii)が<産業の運動 mouvement industriel を指導する>, (iii)が<われわれの父アンファンタンは産業的かつ科学的運動 mouvement industriel et scientifique を指導し, 結び合わせ, 調和させる>, とあったという⁵⁾。つまりバザールの役割は教義の長⁶⁾, O・ロドリグが産業の長, この二人の父を最高の父アンファンタンが宗教として, 統合するという構想であった。したがって《ル・グローブ》の中央の標語そのものの構成であったわけであるが, この「学」Science と教義 doctrine の側面がバザール一派の離脱とともに排除され, 元来サン＝シモンその人にあった社会の学, 歴史の学, 人間の学としてのサン＝シモン主義の科学性, 実証性が, 宗教性の強調によって弱体化され, その宗教性に神秘的に裏打ちされた産業 industrie の学だけが残ってしまったということ, 結論の急ぎ過ぎの弊を覚悟しつつもこのように要約できると思われるのである。

以上のことを<11月27日のセレモニー>に即して見てみると, 残されたサン＝シモン主義者たちの現状がきわめて明瞭に浮かび上ってくる。たとえば《ル・グローブ》28日号の報道は

(.....)

正午になって, われわれの<最高の父>アンファンタンは, 父オランド・ロドリグを従えて登場した着席した。彼の片わらには一つの空の肘掛椅子が置かれていて, これがわれわれの女性に宛てた呼びかけの象徴だった。父

前 田

オランダ・ロドリグは彼の右に座った。会衆は大変多く、周囲の廊下も階段も一杯だった。

(……)

(……)

A midi NOTRE PÈRE SUPRÊME ENFANTIN, suivi du père *Olinde Rodrigues*, est venu s'asseoir; un fauteuil vide était placé à côté du sien, symbole de l'appel que nous adressons à la femme. Le père *Olinde Rodrigues* s'est assis à sa droite. L'assemblée était fort nombreuse, tous les couloirs et l'escalier étaient encombrés.

(……)

<女性>をめぐるアンファンタンとバザールらの極めて思弁的な論争は、<分裂>の原因になった重要な論点であって、別の角度から必ず検討しなければならない問題点であるが、今はそれを脇において、ここに引用した文章の席次を、《ル・グローブ》の中央の標語（かっこ内）に重ね合わせてみるとつぎのようになる。

最高の父アンファンタン

(宗 教)

空 席

(科学)

父O・ロドリグ

(産業)

一般会衆

(普遍的組織)

PÈRE SUPRÊME ENFANTIN

(RELIGION)

fauteuil vide

(SCIENCE)

père O. Rodrigues

(INDUSTRIE)

assemblée

(ASSOCIATION UNIVERSELLE)

つまり、空席になった部分は《11月8日の回状》で見れば〈父バザール〉の席であり、標語で見れば〈科学〉であり、これが未来に待望される〈女性〉のために排除されたという現状を皮肉にも明示しているわけなのである。

(2)

つづいて〈セレモニー〉はアンファンタンの短い演説で始まった。《ル・グロブ》の記事によってこの演説の内容にまず接触してみよう。

(……)

われわれの父アンファンタンは、家族と公衆に向って、われわれが入ろうとする新しい道のことを語った。

〈今日までわれわれは政論家 publicistes であり、哲学者 philosophes であった、と彼は言った。われわれは出自の権利による譲渡を基盤にした古い政治秩序を掘り崩し、能力の序列による位階組織に基づく未来の政治秩序の基礎を築いた。完了した過程でのわれわれの努力のお蔭で、世界は今や新しい「社会」原理を所有している。種子はわれわれが自分たちの手で苦勞して掘り返した土壌の上に蒔き散らされている。その発芽せんことを！……われわれはこれから、われわれが政治のためにやってきたことを道徳のためにやろうとしている。古い社会の個人の絆は重い鎖となった。劣者と優者の絆、家族の絆、男と女の絆、われわれはつぎつぎにすべてをほどき、すべてを結び直そうとしている。

今日までサン＝シモン主義はひとつの「教義」doctrine だった。そしてわれわれは「教義家」docteurs だった。われわれは「教えた」。今やわれわれは「実現し」よう。なぜならば、時間は切迫し、そして苦しんでいる大衆と、混乱し、恐怖のため硬化しているブルジョワにとっては「教訓」以上のものが必要だからである。われわれは総力をあげて、絶対に平和的な方途によって、「産業」industrie の『道徳的』MORALE, 「知的」intellectuelle, 「物質的」physique な解放、いわゆる「産業者」industriels の解

放を「実践し」 *pratiquer* よう。われわれは「礼拝」 *culte* を確立しよう。

(……)

NOTRE PÈRE ENFANTIN a dit à la famille et au public la voie nouvelle dans laquelle nous entrons.

«Jusqu'ici nous avons été des publicistes et des philosophes, a-t-il dit; nous avons sapé l'ordre politique ancien fondé sur la transmission par droit de naissance, et posé les fondement de l'ordre politique de l'avenir fondé sur l'association hiérarchique par ordre de capacité. Grâce à nos efforts pendant la phase qui s'est accomplie, le monde est maintenant en possession d'un nouveau principe social; la semence est répandue sur le sol que nous avons de nos mains péniblement retourné; qu'elle germe!... Nous allons faire pour la morale ce que nous avons fait pour la politique; les liens individuels de la vieille société sont devenus des chaînes pesantes. Liens du supérieur avec l'inférieur, liens de famille, lien de l'homme avec la femme, nous allons successivement tout délier et tout relier.

Jusqu'ici le Saint-Simonisme a été une *doctrine*, et nous avons été des *docteurs*. Nous avons *enseigné*, nous allons *réaliser*; car le temps presse, et il faut plus que des *leçons* aux masses qui souffrent et à la bourgeoisie qui se trouble ou se raidit d'effroi. Nous allons *pratiquer* de toutes nos forces, par les voies exclusivement pacifiques, l'émancipation MORALE, *intellectuelle* et *physique* de *l'industrie*, c'est-à-dire des *industriels*; nous allons fonder le *culte*.

(……)

「礼拝」 *culte* を確立するとはどういうことだろうか。宗教の実践的行為が「礼拝」であるならば、新しい宗教の実践が産業活動であるから、それは、

サン＝シモン主義の分裂 (2)

「礼拝」行為であるという三段論法なのだろうか。したがって「礼拝」を確立するとは、新たな産業活動を設定し、実践を開始するということになるだろうか。つまり、この〈セレモニー〉の中心的儀礼であるO・ロドリゲスによる〈サン＝シモン主義者金融組合〉の設立提案を具体的には指しているのだろうか。いずれにせよ、このことが〈「産業」の『道徳的』、「知的」、「物質的」な解放、いわゆる「産業者」の解放 *l'émancipation MORALE, intellectuelle et physique de l'industrie, c'est-à-dire des industriels* を「実践」することになるということだろう。この部分を先に触れた〈ル・グローブ〉の左側の標語に照合させてみると、バザールらの離反後の路線転換の意味がかなり明らかになってくる。その標語は〈もっとも多数で、もっとも貧困な階級の、道徳的、物質的、知的運命の改善〉*l'amélioration du sort MORAL, physique et intellectuel de la classe la plus nombreuse et la plus pauvre* とあった。したがって、〈もっとも多数で、もっとも貧困な階級〉が〈産業〉あるいは〈産業者〉と変わり、〈運命の改善〉が〈解放〉となっているわけであって、この変更の意味は深長である。たとえば〈1831年11月〉は〈リヨン蜂起〉の日々であり、その真際中にこの変更が行なわれていること、そして、先に引用したアンファンタンの演説の中の、〈苦しんでいる大衆と、混乱し、恐怖のため硬化しているブルジョワにとっては「教訓」以上のものが必要〉、したがって〈「産業者」の解放〉を〈絶対に平和的方途によって〉実践しなければならないとするくだりは、おそらく〈リヨン蜂起〉を直接念頭において発言していると思われるからである。〈リヨン蜂起〉と〈サン＝シモン主義の分裂〉との関連については、別の機会で取扱うつもりでいるが、今はサン＝シモン主義の〈リヨン支部〉、つまり〈リヨン教会〉は、レーノーとピエール・ルルーの宣教によってその基礎固めがなされて(1831年5～6月)、開教したということ、および〈レーノーの説教が教義に最大の災いをもたらし、彼らの民主主義的、共和主義的傾向〉の影響力は大きであって、その印象は早急に取除かなければならない⁷⁾と認識されていたということだけはここで言うておかなければならない。

前 田

(3)

さて、アンファンタンの演説はまだ続く。

われわれの一面は一時的にかげり、欠けて、見えなくなった。それは〈科学〉*science* の、〈教義〉*dogme* の一面である。

Une de nos faces s'est momentanément obscurcie, éclipsee, évanouie ; c'est celle de la *science*, du *dogme*.

この二行の意味はもう明白だろう。さらに続いて、

別の面が立ち上がり、晴やかに成長しようとしている。それは〈産業〉*industrie* の、〈礼拝〉*culte* の面である。それを代表するのは、旧世界の事業を打ち捨て、われわれの間に元の家族を従えてやってきた人オランド・ロドリグ、サン＝シモンの後継者であり、われわれすべてに新しい信仰を授け、今や私の右に座っている人オランド・ロドリグである。

Une autre s'est élevée et va grandir brillante ; c'est celle de l'*industrie*, du *culte* : elle est représentée par *Olinde Rodrigues*, qui, laissant les affaires de l'ancien monde, arrive parmi nous suivi de la famille antique ; par *Olinde Rodrigues*, l'héritier de Saint-Simon, qui nous a tous initiés à la foi nouvelle, et qui maintenant s'assied à ma droite.

(……)

何らの新しい企てが前面に押し出されて、その正当化（正統化）が必要になるときに登場するのはきまってO・ロドリグであった。彼はサン＝シモン

の直接の弟子として授認の先験的権限をそなえているかのようであった⁸⁾。たとえば、〈11月21日の全体集会〉を締めくくるロドリグの発言はこんな風である⁹⁾。

(……)

父ロドリグ：諸君全員の師であり、とりわけ私の師であったサン＝シモンによって私に啓示された「生きた神」DIEU VIVANT の名において、私のここにおける最初の信仰行為は、あなたアンファンタン、あなたがわが時代のもっとも「道徳的」な男、サン＝シモンの真の「後継者」、サン＝シモン教会の「最高の長」CHEF SUPRÊME であると宣言することであらねばならない。

(ブラヴォーの声と長い拍手)

そして私は今こうしてやってきた。わが父の愛、母の愛、姉妹の愛、時が来たと知って、私が〈取引所〉をやめるのを許してくれたわが人生の伴侶、妻の愛、私はわが信仰によって、それぞれできる限りでこれらに打勝ったとき、旧世界のすべての事業を離れてやってきた。そして今や、私は新位階組織 hiérarchie nouvelle を宣言し終えて、万人に向けて、「労働者」の宗教的組合 l'association religieuse de TRAVILLEURS を「現実化する」REALISER するために訴えを行なう。サン＝シモン主義者よ、しっかりと聞き給え。私は「金銭の道徳能力」la PUISSANCE MORALE DE L'ARGENT を設立するために来たのだ。私は、心をもつすべてに、財布をもつすべてに、サン＝シモン主義者の知性をもつすべてに訴えをするために来た。私は彼らに言う。その全生命が世界幸福のために支払われるべきサン＝シモンの家族を「養う」NOURRIR la famille Saint-Simonienne 手段を、私のところにもたらし給え。私はすべてを受け入れるだろう。そしてすべてを報告するだろう。そして、私は身を置くだろう、世界の前に、「金銭」によって力ある者、銀行家の前に、人民を歌おうとする者、人民のために「金銭」を出せる力のある者の前に、「金銭」をもつ女性、あるいは人民のため

前 田

に「金銭」を出させる女性の前に。そして私は彼らに言うだろう、私はここにいる、われわれの「最高の父」PÈRE SUPRÊME の信仰にに服従して、私は「産業の父」PÈRE *de l'industrie*, 「サン＝シモン礼拝の長」CHEF DU CULTE SAINT-SIMONIEN として、と。諸君、私の言葉をわかってくれただろうか。

(歓呼の声) わかった! わかった!

父ロドリグ：諸君は私のあとに従ってくれるだろうか。

全員：わかった! わかった!

(……)

PÈRE RODRIGUES : Au nom du DIEU VIVANT qui m'a été révélé par SAINT-SIMON, votre maître à tous, le mien en particulier, mon premier acte de foi ici doit être de vous proclamer, vous, Enfantin, l'homme le plus MORAL de mon temps, le vrai SUCCESSEUR DE SAINT-SIMON, le CHEF SUPREME de la RELIGION SAINT-SIMONIENNE.

(*Bravos et applaudissemens prolongés.*)

Et moi maintenant j'arrive, quittant toutes mes affaires du vieux monde, quand j'ai eu conquis à ma foi, tout autant qu'il pouvait l'être, l'amour de mon père, et celui de ma mère, et celui de mes sœurs, et celui de celle qui est la moitié de ma vie, de ma femme qui m'a laissé quitter *la Bourse*, quand elle a vu que le temps était venu. Et maintenant après que j'ai proclamé la hiérarchie nouvelle, je fais appel à tous, pour RÉALISER l'association religieuse des TRAVAILLEURS. Saint-Simoniens, entendez-le bien, je viens pour installer la PUISSANCE MORALE DE L'ARGENT, je viens faire appel à tous ceux qui ont un cœur, à tous ceux qui ont une bourse, à tous ceux qui ont une intelligence Saint-Simonienne, et je leur dis : Apportez-moi les moyens de NOURRIR la famille Saint-Simonienne,

dont la vie entière doit être comptée pour le bonheur du monde. Je recevrai tout, et je rendrai compte de tout, et je me placerai en face du monde, en face des banquiers, des hommes puissans par l'ARGENT; en face de ceux qui veulent chanter le peuple, et qui ont puissance de faire donner de l'ARGENT pour le peuple, en face des femmes qui ont de l'ARGENT ou qui ont puissance de faire donner de l'ARGENT pour le peuple, et je leur dirai que, me soumettant à la loi de notre PÈRE SUPRÊME, je suis ici, moi, le PÈRE *de l'industrie*, le CHEF DU CULTE SAINT-SIMONIEN. M'avez-vous entendu?

(*Acclamations.*) Oui! oui!

PÈRE RODRIGUES: Me suivrez-vous?

Tous. Oui! oui!

さて、ここでは、<「労働者」の宗教的組合を「現実化する」>とか、<「金銭の道徳能力を設立する」>という言葉が使われているが、訴えようとしている内容は明白であり、これが<11月27日のセレモニー>の席上で、10条の約定でもってその骨格を示す<サン＝シモン主義者金融組合>の、最初の公的提案であった。そして、これがレーノーの27日の反論 *protestation* をまねき、また翌28日付の<共同抗議声明>の主要な対象となったのであった。したがって、まずこの<サン＝シモン主義信用制> *le crédit Saint-Simonien* とも称せられていたこの構想とは一体何であったかを把握することが必要となってくる。

(この稿続く, le 26 octobre 1988)

注

- 1) 『駒澤大学外国学部論集』第28号, p. 75.
- 2) GRIFFITHS, David Albert—JEAN REYNAUD, *encyclopédiste de l'époque romantique, d'après sa correspondance inédite* (Marcel Rivière, 1965), p. 69.
- 3) <Le Globe>, VII^e ANNEE—N^o 332, LUNDI, 28 NOVEMBRE 1831. この記

前 田

事は《Cérémonie du 27 Novembre》(Au Bureau du Globe, 1831)と表題されて、全24頁の小冊子にそのまままとめられている。この小冊子でいえば引用の箇所は pp. 20~21。

- 4) これは〈F. E. 7645, Archives III〉, f°327 (前号では p. 327, あるいは p. 327 裏というように書いたが、今後は f°327, あるいは f°327 verso という風に統一する)の、《Circulaire de M. Chevalier aux églises》である。左余白に novembre 1831 (巻末の目次では 8^{bre} 1831) とある。さらにその下に (Cette circulaire a été corrigée par Bazard lui-même), また Tous les passages soulignés ont été ou ajoutés d'après la correction de Bazard, ou modifiés comme cela en indiqué par les revois./P. E. (Prosper Infantin の署名) とある。
- 5) 4) に引用したアンファンタンの注記に続いて、左下余白に次のように書かれている。
 - (i) Michel avait écrit : à l'oeuvre de science et d'enseignement,
 - (ii) Michel avait écrit : présidera au mouvement industriel,
 - (iii) Michel avait écrit : notre P^{re} Infantin dirigera, reliera, et harmonisera le mouvement industriel et scientifique. P. E.
- 6) サン=シモンの死後、その遺志の継承として行なわれたのがサン=シモンの思想の深化、普遍化の作業であった。雑誌《生産者》Le Producteur から《サン=シモン主義教義の解説》Exposition de la Doctrine Saint-Simonienne への過程はこれを示しており、そこではバザールがつねに指導的役割を果たしていた。したがって彼が〈学〉の深化とそれの社会宣教、つまり〈教育〉の責任者と任じられるのは自然のなりゆきであった。
- 7) 〈F. E. 7645, Archives III〉f°352~f°352 verso には、アルレス・デュフール Arlès Dufour からエドモン・タラボ Edmond Talabot 宛の下記のような〈手紙〉が筆写されている。

リヨン. 1831年12月28日

アルレスからタラボへ

親愛なるタラボ、私はアンファンタンもロドリーグも乱したくないので、あなたに宛てて書きます。

私が予見していたように、リヨンにおけるレーノーの説教は「教義」に最大の災をもたらしめました。そして確かに彼らの民主主義的、共和主義的傾向は、11月に起きたことに影響なしではありませんでした。友人としては、私の友も知り合いも私をできる限り心をこめて迎えてくれました。しかしサン=シモン主義者としては、彼らは私に呪いの息を浴びせかけました。

(……)

サン＝シモン主義の分裂 (2)

父アンファンタンに言って下さい。もしここに誰かを送る意図があるならば、その者は強く、しかし宗教的な、プロレタリアを道德化し、再結合することができる、しかし弁護士の屁理屈にも返答できる男であらねばなりません。レーノーの説教によって生み出された共和主義の印象を払拭する必要があります。

おそらく強く、宗教的で、学問のある男が、サロンの若い、美男のサン＝シモン主義者でなく、あなたがたのもっとも進歩的なプロレタリアのひとり、労働者によって供をされるべきでありましょう。

Lyon, 28 Décembre 1831 =

Arlès à Talabot

Je m'adresse à vous, mon cher Talabot, ne voulant déranger ni Enfantin ni Rodrigues.

ainsi que je l'avais prévu, les prédications de Reynaud à Lyon ont fait le plus grand mal à la Doctrine ; et certainement leur tendance
démocratique

et républicaine n'a pas été sans influence dans ce qui s'est passé en

novembre.

comme ami, mes amis et connaissance m'ont reçu aussi cordialement que
possible ;

mais, comme St simonien, ils m'ont lancé des bouffées de malédiction.

(.....)

= A. D. =

Dites au Père Enfantin que, si son intention est d'envoyer quelqu'un ici, ce doit être un homme fort, mais religieux ; capable de moraliser et relier des prolétaires ; mais capable aussi de répondre à des ergotisme d'avocat. Il faut détruire l'impression républicaine produite par les prédications de Reynaud.

Peut-etre l'homme fort, religieux et savant devrait-il être accompagné, non pas d'un jeune et joli St Simonien de salon, mais d'un de vos prolétaires les plus avancés, d'un ouvrier,

- 8) たとえば、シャルレティは、アンファンタン＝バザールという二重権威が成立したときのことを、こう描写している。(S. Charléty-Histoire du Saint-Simonisme, p. 66 ; 沢崎・小杉訳—サン＝シモン主義の歴史 pp. 74-75)

だが、一人の教皇の代りに、二人の教皇をつくってしまった。1829年のクリスマスの日、コレージュは会合し、選挙によって、アンファンタンとバザールをサン＝シモン教会の指導者、新しい家族の「父」に指名した。この二重の権威はまさに教

前 田

義の二つの方向を表わしていた。バザールによって理性を、アンファンタンによって感情をだ。しかし彼らの間で、運命は平等ではなかった。アンファンタンの影響力は若い弟子たちに対して優勢だった。反対者は黙って身を引いた。ビュシェは集会に来なかった。アリッス、ブーラン、その他何人かが彼の引退に従った。これが最初の離教者だった。だが、サン＝シモン主義者の中の最古参、「生ける伝承」であり、「師」の言葉を受けて伝えた者であるオランド・ロドリーグは、みずからの権威で新しい位階組織を承認した。12月31日に、デュヴェリエの部屋で、アンファンタン＝バザールの二重の権威を宣言したのは彼なのである。

- 9) 《Réunion générale de la Famille, Séance du Lundi 21 Novembre》, pp. 57～58.